

バラ・アーチング栽培における秋冬期の採花位置変更による増収技術

園芸試験場

1 取り上げた理由

バラのアーチング栽培では、通常株元から採花するため、太くかつ長い切り花が得られるが、日射量の少ない冬期間は萌芽数が減少し、切り花本数が低下する。一方、採花位置を株元から基部5枚葉節1～2節残しとして切り上げると萌芽数が多くなり、切り花本数が増加すると考えられる。そこで、秋冬期の採花位置の変更とその開始時期を検討したところ、成果が得られたので普及技術とする。

2 普及技術

- 1) バラのアーチング栽培において、9～2月に株元採花から基部5枚葉節を1節残す採花に変更することによって、秋冬期の切り花本数は、周年株元採花より定植1年目で約30%、2年目では約50%増加する(表1)。
- 2) 秋冬期の切り花品質は、採花位置を変更しても株元採花とほぼ同等である(表2)。
- 3) 採花位置の変更により、年間の販売額は、周年株元採花より約30%増加する(表3)。
- 4) この収量増加法は品種により効果に差があり、切り花長の短いスプレータイプの品種等には適さない(表4)。

3 利活用の留意点

- 1) 3月から採花の際に順次株元まで切り戻し、株元採花とする。

(問い合わせ先：農業・園芸総合研究所園芸栽培部 電話022-383-8132)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

高収益養液栽培技術の確立

収益性向上のための作型等の改良開発(平成11~12年)

2) 参考データ

表1 採花位置およびその開始時期の違いが切り花本数(本/10株)に及ぼす影響

区別	定植1年目		定植2年目		合計
	10~3月	4~9月	10~3月	4~9月	
9月切り上げ	54.4 (132)	57.7	65.7 (157)	88.9	266.7
10月切り上げ	51.8 (125)	66.3	56.7 (135)	98.0	272.8
周年株元	41.3 (100)	60.8	41.9 (100)	100.1	244.1

品種:ローテローゼ ()内数字は周年アーチング栽培を100とした指数

表2 採花位置およびその開始時期の違いが冬期の切り花品質に及ぼす影響

区別	切り花重平均 (g/本)	切り花長の分布(%)				70cm以上の本数 (本/10株)
		50cm未満	50~60cm	60~70cm	70cm以上	
9月切り上げ	44.5	0.0	1.3	21.8	76.9	41.8
10月切り上げ	46.5	0.0	1.9	12.2	85.9	44.5
周年株元	51.6	0.0	0.9	8.8	90.3	37.3

調査期間:10~3月(6ヶ月間)
品種:ローテローゼ

表3 ローテローゼの月別採花本数,販売額比(周年アーチングを100とした)および平均単価

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年間
採花本数	9月切り上げ 18.7	19.8	16.5	17.1	16.0	20.4	25.3	21.5	17.6	27.0	40.1	18.3	
(千本/10%) 周年株元	11.4	23.9	7.4	8.5	11.4	6.8	15.9	21.6	26.2	39.8	33.6	18.3	
販売額比	9月切り上げ 162	81	223	190	126	294	159	103	66	58	122	84	129
平均単価(円/1本) ²	79.5	64.6	107.8	87.2	101.0	99.6	46.0	30.7	29.5	24.6	41.9	73.5	

²単価は仙台市場の系統出荷のローテローゼの月別階級別単価(平成11,12年の平均)を用いた

表4 品種と採花位置の違いが切り花本数(本/10株)に及ぼす影響

品種名	区別	切り花本数
ローテローゼ	9月切り上げ	54.4
	周年株元	41.3
リトルマーベル	9月切り上げ	36.9
	周年株元	42.9

調査期間:10~3月(6ヶ月間)

3) 発表論文等 なし